

# 地域ネットワークだより



## 大会新記録で **始良** 3連覇!

第37回鹿児島県地区対抗女子駅伝競走大会



Cクラス優勝  
大島



Bクラス優勝  
肝属



優勝・始良



2位  
鹿児島



県内の女性ランナーのレベルアップを目的に、MBC創立35周年を記念して1988年に始まった鹿児島県地区対抗女子駅伝競走大会が1月28日、霧島路を舞台に行われ、近年まれにみる高いレベルのレースを大会新記録で制した始良チームが3年連続、最多16回目の優勝を果たしました。



県地区対抗女子駅伝は霧島市の隼人運動場をスタート・フィニッシュに、6区間21.0975キロでレースが行われます。1区は4キロで、各チームがエースランナーを起用することから「華の1区」と呼ばれています。この日は時折小雨が交じるあいにくのコンディションでしたが、昨年末の全国高校駅伝都大路で優勝した神村学園高等部のメンバーを中心に激しい先頭争いが繰り広げられました。

◀1区・神村学園勢を中心とした先頭争い

3区3キロの中学生区間は全国レベルの戦いになりました。先頭でタスキをもらった始良・橘のん選手が3年連続の区間賞を狙いますが、日置の武田星莉選手が猛追。順位を2位に上げ、始良との差を詰めていきます。一方、5位でタスキを受け取った肝属の瀬戸口恋空選手は、順位こそ1つ上げたただけでしたが、懸命に1秒を削り出して快走。これまでの記録を8秒更新する9分23秒の区間新記録でタスキをつなぎました。



▲逃げる始良、追う鹿児島 最終6区の争い



▲新星登場！3区中学生区間で大会新記録

最終6区は鹿児島銀行陸上部の2人がしのぎを削りました。始良の野村優花選手を33秒遅れてタスキを受け取った鹿児島の上原美幸選手が必死に追います。リオ五輪代表で、去年、この大会に帰ってきた上原選手は区間賞の走りでも懸命に追いましたが一歩及ばず。始良が1時間9分7秒の大会新記録で3連覇。最多16回目の優勝を果たしました。

【優勝・始良】

【2位・鹿児島】

【Bクラス優勝・肝属】

【Cクラス優勝・大島】



2位の鹿児島は去年、おとしの優勝タイムを上回りましたが、始良の壁を崩せませんでした。Bクラス優勝は、Aクラス復帰を果たした肝属。Cクラス優勝は、10位から7位へステップアップした大島で躍進賞も獲得しました。

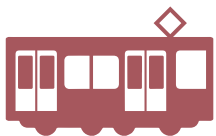
第37回鹿児島県地区対抗女子駅伝競走大会 〈12地区最終結果〉

1位	2位	3位	4位	5位	6位
始良	鹿児島	日置	肝属	出水	川辺
7位	8位	9位	10位	11位	12位
大島	川薩	熊毛	曾於	伊佐	指宿



# 焼き芋を食べながら

## 街を巡る



# マグマ やきいも 電車

MAGMA  
YAKIIMO  
TRAM



焼き芋を味わいながら鹿児島市内を路面電車  
でめぐるイベント「マグマやきいも電車」が今年も  
2月10日から2週間運行されました。これは鹿児  
島市のブランドメッセージ「あなたとわくわく、  
マグマシティ」シティプロモーションの一環で  
2020年から始まった取り組みです。MBCはクリ  
エティブカンパニー「Afro&Co.」と共に初回  
から企画に携わっています。

今年で3回目となる「マグマやきいも電車」は鹿  
児島市のシンボルマーク赤と青の「マグマシティ」  
の柄でラッピングされた路面電車に乗って、生産量  
全国一の鹿児島産のさつまいもを食べる人気のイ  
ベントです。今年も定員の8倍を超える過去最多の申  
し込みがありました。

2月7日には関係者や県内のインフルエンサーが  
参加して、鹿児島市交通局で出発式が開かれ、その  
模様はテレビ番組「かごしま4」でお伝えしました。



さらに2月14日のテレビ番組「てげてげ」  
では運行中のマグマやきいも電車の車内か  
ら竹之内雄太レポーターが生中継。

鹿児島中央駅や天文館の夜景を楽しみ  
ながら4種類の焼き芋の食べ比べを楽し  
む参加者の皆さんの表情を伝えました。

のべ7日間、21便運行されたマグマや  
きいも電車では野口たくおさんや財津三  
奈さんなど6人のMBCタレントが  
日替わりでガイドを担当し、車内では  
安納芋や紅はるかといった焼き芋の食べ  
比べや鹿児島市にまつわるクイズで盛り上がっていました。





# 各地のメディアが

# 情報発信

テレビ番組「かごしま4 (月～金/午後3時49分～)」で放送した各地のメディア発の話題です。

## 奄美群島の

しま おこし  
「島興師」が語る!

### 島サバクリエイティヴGCDトークショー



あまみエフエム デイ!ウェイブ (2月8日放送)

奄美群島の各地で島おこしに取り組む人たちが自身の体験について語るトークショー「島サバクリエイティヴ」が2月3日、徳之島町で開かれました。これは奄美群島広域事業組合が人材育成事業の一環として2015年度から開いているものです。喜界島に地域おこし協力隊として移住してきた谷川理さんは東京都出身で、現在は会社を立ち上げ、喜界島の素材を使った特産品作りに取り組んでいます。「喜界島にはおいしい素材を作るプロは多いが、その素材をさらに生かしたり、情報発信するプレーヤーも少ない」と語る谷川さんは、クラウドファンディングで商品開発の初期費用を調達し、まだスポットライトを浴びてない素材の活用に知恵を絞っています。

とくのしま伊仙まちづくり協同組合の大保健司さんも移住者で、自分が移住してきて仕事探しに困った経験から、移住者のための労働派遣事業を始めました。1年間に2～3つの仕事を回ってもらうことで、「地域の人たちと2倍、3倍関わるきっかけが増え、知り合いも増えるので、より地域に溶け込みやすくなる」と話していました。



## 錦江町

### 和ろうそくの原料 栽培に取り組む



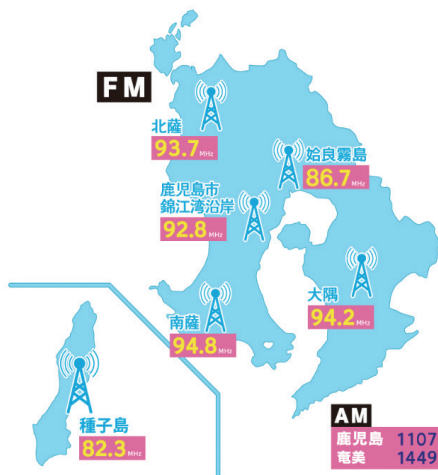
勝手にのおすみプロモーション (2月9日放送)

「勝手にのおすみプロモーション」の宮内ありささんも地域の活性化に取り組む移住者の話題をレポートしてくれました。大阪出身の内田樹志さんは、和ろうそくの火に魅せられ、その原料であるハゼを育てようと会社員を辞めて、錦江町に移住してきました。和ろうそくはハゼの実をつぶし、圧搾して取り出した樹液を加熱して作ります。和ろうそくで使うハゼは琉球から大隅半島の南端に伝わったといわれており、いわば発祥の地。かつては盛んに栽培されていましたが、和ろうそくが使われなくなると、ほとんどが伐採されました。

和ろうそくは伝統工芸品として生産されていますが、原料が不足しがちなことを知った内田さんは、発祥の地でハゼを育てようと錦江町の山を借りて350本ほどを植林し、和ろうそくのワークショップなどを開いています。将来的には地元の人たちにも産業としてかかわってもらえるような仕組みを作るとともに、紅葉が美しいハゼの木が増えることで、紅葉の名所にもしていきたいと話していました。



MBCラジオは全国の民放AMラジオ43局とともに2028年までにFM局となることを目指しています。



ワイドFM対応のラジオ

FMが95MHzまであるラジオ

FM 76 80 86 92 98 108 MHz

AM 5.3 7.89 12 14 16 MHz

○受信できます

ワイドFM未対応のラジオ

FMが90MHzまでのラジオ

FM 76 80 82 84 86 90 MHz

AM 5.3 7.89 12 14 16 MHz

×受信できません  
(始良霧島、種子島は聴取可能)

アナログテレビ1～3chが聴けたラジオ

TV ..... 1 | 2 | 3・CH

FM 76 80 86 92 98 108 MHz

AM 5.3 7.89 12 14 16 MHz

○受信できます

